

一般向け 今川図書館だより

いまがわーんど

2019年 8月号

今月のテーマ

エネルギー・パワー



向日葵

今月の特集「エネルギー・パワー」

夏木立の中に降る蝉しぐれや、水遊びする子供たちのしゃぎ声。なめらかに筋肉を動かし、疾走するアスリートの光る汗。

8月はエネルギー全開の時。太陽からも元気とパワーをもらえそうです。



『カラー版 神のかたち図鑑』

松村一男 / 編・著 2016年 白水社 164マ

古今東西の神々を「天体」「時間」「異界」「動物」など10のテーマで分類。オールカラーの図像がずらりと並ぶ、さながら「神さまカタログ」は、眺めているだけでパワーをもらえそう。

多種多様な神々の姿形は人間の想像力のたまものであり、そこには自然への畏怖だけでなく、困難を切り抜けて生きのびてきた人々の、工夫や遊び心、しびとさ、底力が見える。

能力や名前、物語を中心に解説した姉妹編『神の文化史事典』と併せて、気になる神さまと目が合ったら、詳しく調べてみたい。

令和時代の幕開けの年にふさわしい、敬虔な気持ちで読みたい本である。



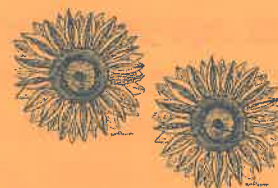
『おもしろサイエンス 熱と温度の科学』

石原顕光 / 著 2019年 日刊工業新聞社 426イ

「熱って何だろう。」という子どものような疑問に、科学的に答えられる人は何人いるのでしょうか。

熱とはエネルギーが変化した形態の1つなのですが、実はその変化にも種類があって……と、一口で説明するのはとても難しいのです。

本書は、具体的な現象を通し、「熱」や「温度」についてやさしく解説しています。中学校や高校では習わないけれど、興味深い基礎的な物理や科学の話。大人の夏の自由研究としてもおすすめです。



『ボクシング日和』

角田光代 / 著 2018年 角川春樹事務所 914.7カク

著者が初めてボクシングの試合を生観戦した時、パンチの音が震え上がるほどよく聞こえ、飛び散る汗がはっきり見えた。人が生身の体ひとつで戦っていることを実感した瞬間である。

さらに、試合を観戦し続けると、その選手に異様な熱を感じる時期がある。その熱の渦中になると「ボクシングってこんなにすごいのか！」と素直に納得する。それは、たったひとり人間が発する熱、永遠の選手生命ではない、その選手の匂が発した熱だからかもしれない。

失恋をきっかけにボクシングジムに通い始めた著者の、3年にもわたるボクシング観戦記。直木賞作家のボクシング愛と筆力が、ボクシングと、それにまつわる人間臭いドラマへと興味を抱かせてくれる。



『人生の気品』

草笛光子 / 著 2017年 新日本出版社 **281ク**

「70代でも80代でも、いつまでたっても人生の“新人”、いつだって“転機”。」「体がいうことをきかない時、最後に残るのは“気”ね。」これは、今年85歳になる女優 草笛光子さんの言葉です。

小説家の赤川次郎氏は「学生時代はコンプレックスだらけ。だから、成功できない人の気持ちがわかるし、自分の小説の基本になっている。」と言います。

紹介した方以外にも、元宝塚の女優 鳳蘭さん、俳優 宝田明氏、映画監督 周防正行氏、女優 渡辺美佐子さんなど15名の方々が、華やかな活躍からはうかがい知れない苦労や苦悩、気持ちをプラスに転じたきっかけや出会いを語っています。それぞれの話は味わい深く、読後には明日への活力が湧いてくる。「人生の応援歌」のような一冊です。



『大相撲決まり手大図鑑全 82 手』

ベースボール・マガジン社 / 編集 2018年

ベースボール・マガジン社 **788.1ハ**

日本の国技である相撲、その勝負をもりあげるのが「決まり手」である。室町時代にはすでに48手あったという決まり手は、その後、多くの力士たちの名勝負の結果、新たに増え、さらに改訂され、現在では82手となっている。本書ではその全決まり手を連続写真と共に紹介している。

また、決まり手誕生までの軌跡や、ワザ師と呼ばれた力士の紹介など、相撲の魅力が満載である。

この一冊で相撲ファンはもちろん、相撲初心者でも、パワーあふれる力士たちの戦いがますます面白くなること、まちがいなし。



YA におすすめ!



中高生のみなさんにおすすめの本を紹介します。
今月は、職場体験にきた中学生が紹介してくれた本です。

『ざんねんないきもの事典[正]おもしろい! 進化のふしぎ』

今泉忠明 / 監修 2016年 高橋書店 **480タ**

みなさんは動物が好きですか。

この本には、動物園などでよく見る動物の、見た目とは違う不思議な特徴や少しざんねんなこと、どうやっていきものは進化していったのかなどが、詳しく書いてあります。

たとえば、最近とても人気のパンダがよく食べるササの葉は、ほとんど栄養がありません。それなのにどうして食べているのか。なぜなら、パンダは大昔にクマなどに住む場所を追われ、ササしか生えないような高山に住まなければならなくなりました。そのため、栄養がほとんどないササの葉を、1日に大量に食べるはめになってしまったのです。

このように、この本にはたくさんの豆知識のようなものも、のっています。みなさんも、機会があればぜひ読んでみてはいかがでしょうか。

(荻窪中学校2年生の紹介文です)





今川図書館に新しく入った本から、おすすめの本を紹介します。

『京都怪談巡礼』

堤邦彦 / 著 2019年 淡交社 388ツ

歴史ある町、京都。京都は昔から「百鬼夜行」、「魑魅魍魎とそれを退治する陰陽師」などの舞台として知られ、京都の怪談・魔界の物語を紹介する本がたくさんあります。しかし、そのほとんどが平安時代の怪談で、江戸時代以降から語りつがれている怪談を扱っている本は少ないのです。

本書では、近世日本文学を研究する著者が、あまり注目されていない近世の京都の怪談について紹介。また、京都の怪異小説や名所記の記述を手がかりに、京都怪談の舞台を取材した「怪談フィールドワーク」、『幻想文学』『幽』の編集長を歴任した東雅夫との対談も収録。さらに、怪談名所めぐりに便利な地図まであり、すぐに巡礼に出掛けられます。この夏、京都の江戸怪談で涼しくなってみませんか。



◇展示「9月1日は“防災の日”」◇

“防災の日“は、1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災にちなみ制定されました。”防災の日“にあわせて、防災に関する資料を展示します。あらためて、災害時の備えについて見直してみませんか。

日時：8月23日(金)～9月1日(日)

場所：1階 特別展示コーナー



地域の緑化推進を、本のチカラで強力にサポート。
今川図書館がおすすめする緑化関連資料をご紹介します。



『花の壁飾りスワッグの作り方』

植物を重ねて束ねる、お洒落なインテリア』

誠文堂新光社 / 編 2017年 誠文堂新光社 627セ

「スワッグ」とは花や枝で作る壁飾りのこと。鉢植え、花束、一輪挿しとはちがい、省スペースで手軽に植物を楽しめます。お手洗いには芳香剤がわりのハーブを織りこんだもの、玄関にはさわやかなユーカリ、寝室にはアロマ効果のあるラベンダーなど、香りのあるスワッグは癒し効果もあります。

本書では、スワッグの飾り方や作り方、花屋さんとフラワーアーティストによる様々なスワッグを紹介しています。束ねて、飾って、癒されて。いつもの空間を素敵に彩ってみましょう。

今川図書館のあれこれ♪「エネルギー・パワー」

☆今川図書館の向かいに、杉並区の公園(新町鳥居先公園)があります。夏休みには、遊びの合間に本を借りたり、水を飲んだり、涼みに来たりと、公園と図書館を元気に往復する子供たちの姿を見る機会が増えます。子供たちは本当にパワフル!暑さをもともせず、エネルギー全開です。今川図書館では、子供たちの安全を考慮し、図書館の入口に、駐車禁止のコーンを設置しました。ご協力よろしくお願いいたします。



☆なお、今川図書館の駐車場はお身体の不自由な方専用の駐車場です。車でお越しの方は、近隣の駐車場をご利用ください。



8月 今川図書館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				おはなし会		
4	5	6	7	8	9	10
	休館日			おはなし会		
11	12	13	14	15	16	17
	おはなし会	あかちゃん おはなし会		休館日		
18	19	20	21	22	23	24
	おはなし会			おはなし会		
25	26	27	28	29	30	31
	おはなし会				あかちゃん おはなし会	

開館時間 月～土 9時～21時
 の日（日曜・祝日）は9時～17時
 休館日 第1月曜日・第3木曜日

おはなし会については、児童向け図書館だよりをご覧ください。
 杉並区立今川図書館
 杉並区今川4-12-10 TEL 03-3394-0431